



横浜市立新橋小学校

学校だより



横浜市立新橋小学校
校長 内田 宏

問いをもち続ける新橋の子どもたち

～「ひかりの池」から広がる探究～

昨年度の6年生がユリノキの時間の取組として整備し、命あふれる環境としてよみがえらせた「ひかりの池」。その学びを受け継ぐように、一人の6年生が4月から夏休みにかけて、ほぼ毎日のように池の観察を続けてきました。観察の記録を読み進めるうちに、その継続する力と学びの深まりに大きな感銘を受けました。

雨の日には水位の変化を確かめ、生き物の様子を記録する。オタマジャクシが減ったことに気づき、その理由を考える。タニシの成長や池の水草に目を向け、新たな疑問をもつ。どの記録からも、生き物や自然環境への確かなまなざしが伝わってきました。この探究の素晴らしさは、調べた内容の多さだけではありません。毎日の観察から生まれた疑問を出発点に、自ら調べ方を考えながら学びを広げていったところにあります。まず観察を続ける。その中で見付けた変化や不思議を問いとして取り出す。そして図鑑などを活用して調べる。さらに実際に行動し、その結果を再び観察する。そこには、「見る」「気付く」「調べる」「比べる」「試す」「確かめる」という学びの循環が自然に生まれていました。特に印象的だったのは、学校の「ひかりの池」だけでなく、新橋のまちを流れる阿久和川にも目を向けていたことです。池にはどんな生き物がいるのか。川にはどんな植物が生えているのか。なぜ環境が違うのか。自然の川と学校の池とを比較することで、新たな問いが次々と生まれていました。比較することで特徴や違いを見だし、その理由を考え続ける過程には、探究する学びの本質が表れていました。さらに、調べるだけで終わることなく、川で見付けた植物を育ててみたり、池の環境改善につながる方法を考えたりしながら、仮説を実際の行動へと結び付けていました。

学習は、用意された答えを覚えることだけではないことを改めて教えられました。「なぜだろう」「もっと知りたい」「試してみたい」という思いから問いが生まれ、その問いを追究する中で学びが深まっていきます。昨年度の6年生から受け継がれた「ひかりの池」は、子どもたちが問いを見付け、考え、挑戦する学びの場として育っています。また、この探究は一人の学びにとどまりません。新橋の自然や先輩たちが残してくれた環境が新たな問いを生み、その問いが次の学びへとつながっていきます。こうした学びの積み重ねこそが、新橋小学校で大切にしたい探究の文化を育てていくのだと思います。一つの問いを大切に追いつける姿は、周りの子どもたちにとっても新たな学びの種となります。子どもたちが自ら問いをもち、まちや自然とつながりながら学び続ける姿を、これからも大切に育てていきたいと思っています。

□子どもたちの安全を守るために積極的な活用を

学校の方でも下校時はできるだけ帰る方向が同じ友達と複数人で帰ることや、不審者らしき人物がいた時にはすぐに離れることなどを引き続き指導していきます。ご家庭でも、お子さんと登下校時の確認をしていただき、様々な目で子どもたちの登下校の安全・安心を図っていきたいと考えています。ご理解ご協力をお願いします。

また、お子様から不審者に関する情報がありましたら、速やかに警察までご連絡をお願いします。

※防犯に関する情報は、学校からも可能な範囲でお伝えしておりますが、神奈川県警察では、防犯情報（声かけ事案・不審者情報等）を電子メールでお知らせする『ピーガルくん安全メール』サービスを行っています。また、警察が発信する情報を、収集・活用できる『かながわポリス』というアプリもあります。子どもたちの安全・安心を守るためには、学校と家庭、地域それぞれで情報を共有していくことが大切です。ぜひ『ピーガルくん安全メール』や『かながわポリス』を積極的にご活用いただき、日ごろから地域の防犯情報にも目を向けていただければ幸いです。「それぞれ、下記の QR コードから内容等が確認できますので、ご活用ください。

ピーガルくん安全メール



神奈川県警察公式アプリ「かながわポリス」



□『緊急時の対応について』改訂版配付について

防災気象情報が、『危険警報レベル4』等の避難を促す表現に変わったことにより、年度当初に配付した『緊急時の対応について』を内容を改訂させていただきました。

9月18日にグレーのA3判用紙にて、家庭数でお子さんが持ち帰っておりますので、差し替えをお願いします。